

# 第69回 愛媛新聞賞

ふるさと愛媛の社会・経済の発展や文化振興に貢献した個人・団体を顕彰する第69回愛媛新聞賞の受賞者3人が決まった。

社会部門は、愛媛大特別栄誉教授で、どのようなタンパク質でも安価、効率的、大量に作れる「コムギ胚芽無細胞タンパク質合成技術」を開発した遠藤弥重太さん＝松山市。

経済部門は、伊予鉄グループ相談役で、公共交通事業者として長年にわたり地域住民の足を担い、県商工会議所連合会会頭を務め地域経済発展にも貢献した佐伯要さん＝松山市。

文化部門は、絵手紙作家で、日本絵手紙協会を設立し各種メディアを通して絵手紙の普及に努め、絵手紙文化にまで育て上げた小池邦夫さん＝東京都粕江市在住、松山市出身。

受賞者の横顔や業績を紹介する。

# 一意専心 実り豊かに

社会部門  
愛媛大特別栄誉教授  
県立医療技術大客員教授  
遠藤 弥重太さん(74)＝松山市



「生命は化学反応で成り立つ」と語る遠藤弥重太さん

## タンパク質合成 新技術

「物事を当たり前と感してしまつたら、やる気なんかは出ない」。小麦胚芽を使い、安価にさまざまなタンパク質を合成することのできる「無細胞タンパク質合成技術」の生みの親。世界で初めての方法を確立した秘訣(ひけつ)は、探究心だと笑顔で明かす。徳島県で過ごした少年時代には音楽家への夢も抱いていたという。しかし中学時代に出会った理科教諭に感化されて研究者を志し、運命が変わった。

研究が花開いたのは、愛媛大工学部教授時代の1998年だ。上にも関わった。

2002年には、合成技術を使ったタンパク質や生産キットを販売する愛媛大発のベンチャー企業「セルフリーサイエンス」の立ち上げにも関わった。

今では研究の第一線から距離を置くが、後輩から力を必要とされるときは「喜んで駆けつける」。タンパク質と向き合い続けた情熱と探究心をのぞかせた。(宇和上翼)

「研究に打ち込む中「生命は化学反応で成り立つ」と思うようになった。化学として生命を考えると、千年前からの計算でも1人の命には10億人以上の先祖の遺伝子が混和されている。だからこそ「生まされただけでエリート。皆が自分を誇っている」と命のかけがえのないことを伝え、全ての人にエールを送りたいという。